SCHEDULE 令和4年度〈7月～9月〉

■ 休館日　★ イベント　● ギャラリー・ツアー　◆ ギャラリー・トーク　⬟ アーティスト・トーク

7 JUL

	1 金	2 土	3 日	4 月	5 火	6 水	7 木	8 金	9 土	10 日	11 月	12 火	13 水	14 木	15 金	16 土	17 日	18 月	19 火	20 水	21 木	22 金	23 土	24 日	25 月	26 火	27 水	28 木	29 金	30 土	31 日
		★	⬟						◆	⬟							⬟						◆	⬟						★	⬟
展示室1	普通展示（浮世絵）：**水野年方**（~7/24）																									普通展示（浮世絵）：**尾形月耕の美人画**（7/26~8/28）					
展示室2	普通展示（東洋陶磁）：**世界を魅了したやきもの 青花磁器**（~8/28）																														
展示室3~6	**日本工芸会陶芸部会50周年記念展 未来へつなぐ陶芸―伝統工芸のチカラ展**（7/2~8/28）																														
展示室7	普通展示（陶芸）：**陶－創造の逸脱力**（~12/18）																														
展示室8	普通展示（陶芸）：**止原理美展 現在形の陶芸 萩大賞展V 大賞受賞記念**（~12/18）																														
特選鑑賞室	溪斎英泉 **木曾路駅 野尻 伊奈川橋遠景**（7/1~7/31）																														
茶室	**イワタルリ GLASS×鉄×茶室**（~2023.3/26）																														

8 AUG

	1 月	2 火	3 水	4 木	5 金	6 土	7 日	8 月	9 火	10 水	11 木	12 金	13 土	14 日	15 月	16 火	17 水	18 木	19 金	20 土	21 日	22 月	23 火	24 水	25 木	26 金	27 土	28 日	29 月	30 火	31 水
						★	★⬟							⬟							⬟						◆				
展示室1	普通展示（浮世絵）：**尾形月耕の美人画**（~8/28）																														
展示室2	普通展示（東洋陶磁）：**世界を魅了したやきもの 青花磁器**（~8/28）																														
展示室3~6	**日本工芸会陶芸部会50周年記念展 未来へつなぐ陶芸―伝統工芸のチカラ展**（~8/28）																														
展示室7	普通展示（陶芸）：**陶－創造の逸脱力**（~12/18）																														
展示室8	普通展示（陶芸）：**止原理美展 現在形の陶芸 萩大賞展V 大賞受賞記念**（~12/18）																														
特選鑑賞室	葛飾北斎 **富嶽三十六景 甲州三坂水面**（8/1~8/28）																														
茶室	**イワタルリ GLASS×鉄×茶室**（~2023.3/26）																														

9 SEP

	1 木	2 金	3 土	4 日	5 月	6 火	7 水	8 木	9 金	10 土	11 日	12 月	13 火	14 水	15 木	16 金	17 土	18 日	19 月	20 火	21 水	22 木	23 金	24 土	25 日	26 月	27 火	28 水	29 木	30 金
										★	●							●							●					
展示室1										**蒐集家 浦上敏朗の眼 浮世絵・やきもの名品展**（9/10~11/13）																		
展示室2										**蒐集家 浦上敏朗の眼 浮世絵・やきもの名品展**（9/10~11/13）																			
展示室3~6										**蒐集家 浦上敏朗の眼 浮世絵・やきもの名品展**（9/10~11/13）																			
展示室7	普通展示（陶芸）：**陶－創造の逸脱力**（~12/18）																													
展示室8	普通展示（陶芸）：**止原理美展 現在形の陶芸 萩大賞展V 大賞受賞記念**（~12/18）																													
特選鑑賞室										葛飾北斎 **富嶽三十六景 凱風快晴**（9/10~9/30）																			
茶室	**イワタルリ GLASS×鉄×茶室**（~2023.3/26）																													

★ イベント

記念講演会①（要観覧券）
【日時】7月2日（土）13:30~15:00
【演題】日本の伝統陶芸の歴史的展開と未来への展望
【講師】唐澤昌宏氏（国立工芸館館長、本展監修者）
【会場】本館講座室
【定員】40名（要事前予約、受付開始 6月11日（土）、9時~）

記念講演会②（要観覧券）
【日時】7月30日（土）13:30~15:00
【演題】陶芸で私が行なってきたこと
【講師】前田昭博氏（陶芸家、重要無形文化財「白磁」の保持者）
【会場】本館講座室
【定員】40名（要事前予約、受付開始 6月11日（土）、9時~）

特別対談（要観覧券）
【日時】8月6日（土）13:30~15:00
【演題】非対称性へのまなざし
【講師】中野信子氏（脳科学者）×唐澤昌宏氏（国立工芸館館長、本展監修者）
【会場】本館講座室
【定員】40名（要事前予約、受付開始 6月11日（土）、9時~）

アートフェスティバル2022
【日時】8月6日（土）、7日（日）9:00~17:00
【内容】子どもから大人まで楽しめるステージや
ワークショップなどイベントが盛りだくさん!

記念講演会（聴講無料）
【日時】10月1日（土）13:30~15:00
【演題】プロの"眼"から見た浦上コレクション
【講師】浦上満氏（浦上蒼穹堂代表、浦上敏朗氏長男）
【会場】本館講座室【定員】40名（要事前予約、受付開始 8月6日（土）、9時~）

● ギャラリー・ツアー

〈担当学芸員による特別展示作品解説〉
「蒐集家 浦上敏朗の眼 浮世絵・やきもの名品展」
会期中の毎週日曜日 いずれも 11:00~12:00
● 9月11日（日）浮世絵　● 9月18日（日）やきもの
● 9月25日（日）浮世絵
【定員】各日浮世絵10名、やきもの20名（要事前予約・要観覧券）

◆ ギャラリー・トーク

〈担当学芸員による展示作品解説〉
いずれも11:00~（30分程度）
◆ 7月 9日（土）水野年方　◆ 7月23日（土）陶ー創造の逸脱力
◆ 8月27日（土）尾形月耕の美人画
【定員】各日10名（要事前予約・要観覧券）

⬟ アーティスト・トーク

〈出品作家によるトーク〉
「日本工芸会陶芸部会50周年記念展 未来へつなぐ陶芸―伝統工芸のチカラ展」
いずれも11:00~（30分~1時間程度）
⬟ 7月 3日（日）大和保男氏
⬟ 7月10日（日）波多野善蔵氏
⬟ 7月17日（日）岡田裕氏
⬟ 7月24日（日）十三代 三輪休雪氏
⬟ 7月31日（日）十五代 坂倉新兵衛氏
⬟ 8月 7日（日）新庄貞嗣氏
⬟ 8月14日（日）岡田泰氏
⬟ 8月21日（日）渋谷英一氏
【会場】本館2階展示室【定員】各日20名（要事前予約・要観覧券）

事前予約について

電話またはWEBにてお申し込みください。

【電話の場合】
TEL 0838-24-2400にて、①~④をお知らせください
①参加するイベント名　②参加者の氏名　③年齢
④代表者の日中の連絡先電話番号

【WEBの場合】
WEBからのご予約は
美術館ホームページをご覧ください。

※お申込受付は先着順です
※記念講演会、特別対談、ギャラリー・ツアー、アーティスト・トーク、ギャラリー・トークへのご参加には観覧券が必要です
※イベント詳細については美術館ホームページをご覧ください

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
臨時の休館やイベントを中止・変更する場合があります。
詳しくは当館ホームページをご覧ください。
URL:https://www.hum.pref.yamaguchi.lg.jp/
【お問い合わせ】TEL 0838-24-2400

交通アクセス

［新山口駅から］
■ 直行バス「スーパーはぎ号」（約60分）で
萩・明倫センター下車、徒歩約5分
■ 防長バス（約90分）で
萩バスセンター下車、徒歩約12分

［山口宇部空港から］［萩・石見空港から］
■ 萩近鉄タクシー（乗合タクシー）
約70~80分（利用前日までに要予約）

［JR山陰本線］
■ JR萩駅から萩循環まぁーるバス（西回り）約30分
■ JR東萩駅から萩循環まぁーるバス（東回り）約30分
■ JR玉江駅から徒歩約20分

［自動車］
■「中国自動車道」美祢東JCT経由、
「小郡萩道路」絵堂ICから約20分
■「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い

最新情報は公式SNSで

山口県立萩美術館・浦上記念館
HAGI URAGAMI MUSEUM
〒758-0074 山口県萩市平安古町586-1　TEL 0838-24-2400　FAX 0838-24-2401
URL https://www.hum.pref.yamaguchi.lg.jp/

季刊「萩」 令和4年（2022）7月1日 通巻第104号 ［発行］山口県立萩美術館・浦上記念館 山口県萩市平安古町586-1

題字は吉田松陰筆跡

山口県立萩美術館・浦上記念館

HAGI 萩

HAGI URAGAMI MUSEUM MAGAZINE

104
SUMMER ISSUE
2022

日本工芸会陶芸部会50周年記念展

未来へつなぐ陶芸 伝統工芸のチカラ展

岡田泰《淡青釉鉢》2019年 個人蔵

HAGI URAGAMI MUSEUM

岡田泰《淡青釉鉢》2019年 個人蔵

未来へつなぐ陶芸
――伝統工芸のチカラ

2022年、日本工芸会陶芸部会は活動をはじめてから50周年を迎えた。本展覧会はこれを記念して開催される。陶芸部会には、いわゆる「人間国宝」で知られる重要無形文化財保持者から若手の陶芸家までが所属する。昭和25年に施行された文化財保護法において保存、活用のための措置が必要とされた陶芸技術は、その5年後の文化財保護法改定を機に「日本工芸会」が発足したことで、いっそうその重要性に目が向けられた。しかし、この制度は陶芸家の自主的な制作を評価するものであり、やはり、そういった国家的な動きを結実させたのも陶芸家たちのたゆまぬ前進があったからこそである。

三輪休和《萩四方水指》1972年
東京国立近代美術館蔵

三輪壽雪《白萩手桶花入》1965年
山口県立萩美術館・浦上記念館蔵

大和保男《炎箔文四方陶筥》1988年
山口県立萩美術館・浦上記念館蔵

波多野善蔵《萩茶盌》2015年 個人蔵

岡田裕《炎彩花器》2010年 山口県立萩美術館・浦上記念館蔵

十三代 三輪休雪《エル キャピタン》2021年 個人蔵

十五代 坂倉新兵衛《萩灰被四方平皿》2013年 個人蔵

気持ちが入る

陶芸の魅力を理解する上で面白い視点は、魅了されているのは、見る者だけでなく作り手も含まれることである。もしかすると、作り手の方がその感情を存分に味わっているかもしれない。美しいものには、その完成度の高さに比例して、作り手の日々の試行錯誤や鍛錬がある。そのようにして生まれた作品は単なるモノではなく、まるで生身のようにその成果を体現し、見る者の心に染み入る。「気持ちが入る」という言葉があるが、実際にこのようなことが起こっているのではないか。

カタチのミナモト

たとえば、陶芸の素材である粘土は、陶土と磁土などと細分すればいくつか違いはあるものの、粘土から形を作って焼成するという仕組みは同じである。そうであるにもかかわらず、本展で展示する137名の作家による作品に一つたりとも同じものがないのはなぜだろう。

陶芸の工程では、完成までに様々な選択が行われる。粘土の粒子にまで目を向けるとどのような成分や鉱物を混ぜるか。また、焼成は高温で行われるか低温か。さらには、釉薬をかけるか、色を付けるか、絵付けを行うかなど。そして、その意思決定には、出身地など作家が深く関与した土地の風土であったり、父祖より継承した技であったり、出会った感動的な事物であったり、時には純粋に好みであったりと、作家を取り巻く環境や経験が影響を与えている。作品の制作には、「技」に加えて、作家の様々な「思考」がある。

思考をひもとく

本展覧会は全国8会場を巡回しているが、なかには長い歴史をもつ陶磁器産地での開催もある。当館もその一つで、立地する萩市は萩焼の産地である。萩焼は開窯から400年余りの歴史があると考えられ、伝統的に大道土、見島土、金峯土の3種を主に使い、陶器を中心に作ってきた。萩焼と一口に言っても素地のあり様は色々である。3種類の土の配合率、またはその取捨選択、さらにはそれ以外の土を採用するなど、自由な土づくりで窯元や作家によって違いが生まれる。素地土の質感は作品の印象に影響するので、その精粗や焼成後の色調の違いは、作家の思い描く完成形を一変させる。

たとえば、本展出品の岡田泰（1976-）が制作した≪淡青釉鉢≫の素地土は、白っぽく肌理の細かい質感である。このような粒子の細かい土で作られた素地は、萩ならではの呼称で「姫萩」と呼ぶ。本作では大道土を主に使い、肌色を帯びたやわらかな素地に焼きあがっている。そして、大切なポイントはこの特徴が淡青釉とよく合っていることである。つまり、淡い青色のすっきりとしながらも、素地の肌色に影響されて現れた、どこか温かみのある雰囲気が魅力的な作品となっている。伝統的な萩焼の土や製作方法を継承しながらも、この産地ではほとんど使われることのなかった色釉薬を新しい発想で取り合わせ、淡い微妙な色を特徴的に表現している。この例のように、完成に至るまでのいくつもの場面での選択が、作家の思考のもと行なわれている。

未だ見ぬ感動を秘め

本展では、萩焼だけではなく、国内各地で活動する作家の作品を展示する。歴代人間国宝の作品、そして、注目すべきは若手作家や、日本工芸会陶芸部会以外の場で活動する作家の最新作も並ぶことである。

日本陶芸は多様で、その裾野は広い。わが国には、作家の豊かな思考を支える土壌がある。そのなかにあって、自分の思い描くカタチを作り上げるためにひたすらに技を磨き、思考を磨いている。先人が培ってきた技を礎に、現代の陶芸家がこれからどのように開花していくのか。まだ見ぬ感動の予感を会場で味わってほしい。

（当館学芸員　市来真澄）

新庄貞嗣《萩茶碗》2019年 個人蔵

渋谷英一《黒彩器ー相ー》2019年 個人蔵

日本工芸会陶芸部会50周年記念展

未来へつなぐ陶芸 伝統工芸のチカラ展

Ceramics of the Past and of the Future: The Timelessness of Traditional Japanese Craft Arts

2022 7/2 Sat.〜8/28 Sun.

休館日／7月11日(月)、7月19日(火)、7月25日(月)、8月8日(月)、8月15日(月)、8月22日(月)
開館時間／9:00〜17:00(入場は16:30まで)
観覧料／一般1,500(1,300)円　学生1,300(1,100)円　70歳以上1,200(1,000)円
［開催中の普通展示もご覧いただけます］

※(　)内は前売りおよび20名以上の団体料金。※18歳以下の方および高等学校、中等教育学校、特別支援学校の生徒は無料。※身体障害者手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、精神障害者保健福祉手帳の提示者とその介護者(1名)は無料。※前売券は、ローソンチケット(Lコード63127)、セブンチケットでお求めになれます。※割引券は県内各プレイガイドおよび道の駅、旅館等観光施設に設置しています。

【主催】未来へつなぐ陶芸展萩実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、朝日新聞社、yab山口朝日放送)、公益社団法人日本工芸会、NHKエンタープライズ中国
【後援】山口県教育委員会、萩市、萩市教育委員会　【特別協力】エフエム山口

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館やイベントを中止・変更する場合がございます。詳しくは当館ホームページをご確認ください。

イベントのご案内

記念講演会①
「日本の伝統陶芸の歴史的展開と未来への展望」
【講師】唐澤昌宏氏(国立工芸館館長、本展監修者)
※要観覧券、要事前申込(先着40名)
【日時】7月2日(土)13:30〜15:00【会場】本館講座室(40席)

記念講演会②
「陶芸で私が行なってきたこと」
【講師】前田昭博氏(陶芸家、重要無形文化財「白磁」の保持者)
※要観覧券、要事前申込(先着40名)
【日時】7月30日(土)13:30〜15:00【会場】本館講座室(40席)

特別対談
「非対称性へのまなざし」
【講師】中野信子氏(脳科学者)×唐澤昌宏氏(国立工芸館館長、本展監修者)
※要観覧券、要事前申込(先着40名)
【日時】8月6日(土)13:30〜15:00【会場】本館講座室(40席)

アーティスト・トーク(出品作家によるトーク)
※要観覧券、要事前申込(先着20名)
【日時】7月3日(日)・大和保男氏　7月10日(日)・波多野善蔵氏
7月17日(日)・岡田裕氏　7月24日(日)・十三代 三輪休雪氏
7月31日(日)・十五代 坂倉新兵衛氏　8月7日(日)・新庄貞嗣氏　8月14日(日)・岡田泰氏　8月21日(日)・渋谷英一氏
いずれも11:00〜(30分〜1時間程度)
【会場】本館2階展示室

お申込みは電話またはWEBで(受付開始日時:6月11日(土) 9:00)
《電話》0838-24-2400にて、①〜④をお知らせください。
①参加希望日 ②参加希望者全員の氏名 ③年齢 ④代表者の日中のご連絡先
《WEB》当館ホームページをご覧ください。
◆イベントのリピート参加にはメンバーズクラブのご入会をおすすめします。詳しくは当館ホームページで案内しております。(入会受付は7月31日まで)

蒐集家

浦上敏朗の眼

浮世絵・やきもの名品展

2022
9.10(土)−11.13(日)
前期 9.10(土)−10.10(月・祝)
後期 10.12(水)−11.13(日)
※浮世絵のみ全作品展示替えを行います。

休館日／9月12日(月)、20日(火)、26日(月)、10月11日(火)、17日(月)、24日(月)、31日(月)
開館時間／9:00−17:00(入場は16:30まで)
観覧料／一般1,500(1,300)円　学生1,300(1,100)円
70歳以上1,200(1,000)円［開催中の普通展示もご覧いただけます］
※(　)は前売りおよび20名以上の団体料金。
※18歳以下の方と高等学校、中等教育学校、特別支援学校の生徒は無料。
※身体障害者手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、精神障害者保健福祉手帳のご提示者とその介護者(1名)は無料。
※前売券は、ローソンチケット(Lコード 63296)、セブンチケットでお求めになれます。
※割引券は、県内プレイガイド、道の駅、旅館等観光施設に設置しています。

主催:浦上敏朗の眼展実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、読売新聞社、KRY山口放送)
後援:山口県教育委員会、萩市、萩市教育委員会

葛飾北斎「風流無くてなゝくせ　遠眼鏡」大判錦絵
享和期(1801〜1804)頃　浦上敏朗氏寄贈

当館は、萩市出身の実業家であった浦上敏朗氏(1926〜2020)が40年近くにわたって蒐集された浮世絵と東洋古陶磁を核としたコレクションを、平成5年(1993)に山口県に一括して寄贈されたことを契機として開館しました。浦上氏は当館名誉館長として、毎年美術品の寄贈を続けられて、コレクションの充実を図られるなど、当館活動の発展に大いなる貢献を果たされました。

本展覧会は、令和2年(2020)8月15日に逝去された浦上氏の三回忌という節目の年にあたって、その遺徳を偲んで開催するものです。

美術品に対する自分自身の“眼”を信じ、情熱を注いで築かれた浦上コレクション。そのなかから浮世絵、中国・朝鮮古陶磁の逸品をご紹介し、今、あらためて、その魅力に迫ります。

《青花月兎文栗鼠耳角扁壺》朝鮮時代・18〜19世紀　浦上敏朗氏寄贈

イベントのご案内

記念講演会「プロの“眼”から見た浦上コレクション」
※聴講無料・要事前申込(先着40名)
【講師】浦上満氏(浦上蒼穹堂代表、浦上敏朗氏長男)
【日時】10月1日(土)13:30〜15:00【会場】本館講座室

ギャラリー・ツアー(担当学芸員による展示解説)
※要観覧券・要事前申込(浮世絵先着10名、やきもの先着20名)
【日時】会期中の毎週日曜日 11:00〜12:00
(浮世絵)9月11日、25日、10月9日、23日、11月6日
(やきもの)9月18日、10月2日、16日、30日、11月13日
【会場】(浮世絵)本館1階展示室　(やきもの)本館2階展示室

申込方法
受付開始日時:8月6日(土)9:00
《電話》0838-24-2400にて、①〜④をお知らせください。
①参加希望日
②参加者全員の氏名
③年齢
④代表者の日中のご連絡先
《WEB》当館ホームページをご覧ください。
※新型コロナウイルス感染状況によっては、中止・変更となる場合がございます。

イワタルリ
GLASS × 鉄 × 茶室

2022年4月2日［土］ー2023年3月26日［日］

イワタルリ
《GLASS × 鉄 × 茶室》に寄せて

陶芸、漆芸、絵画…。これまでさまざまな分野で活躍される方々に当館の茶室展示を引き受けていただいたが、意外にもガラスのインスタレーションは初めてとなる。このたびは現代日本のグラス・アートを代表する作家、イワタルリによる茶室展示である。

イワタについて語る際、まず触れておかねばならないのは、彼女がガラス工芸の名家、岩田家に生まれた作家ということである。イワタの祖父・岩田藤七(1893-1980)が、ガラス作家として活動を開始したのは昭和初期で、その頃は、ガラスといえば理化学機器、窓ガラスをはじめとした工業製品、あるいはコップや瓶など日用品のための素材といった認識であった。そのようななかで、藤七は吹きガラスの技法によって色ガラスの花器や茶道具、建築装飾を手掛け、その芸術性の高いガラス造形は、ガラスと工芸を結びつける役割を果たした。藤七の長男で、イワタの父・岩田久利(1925-1994)はその後を継ぐとともに、ガラス作家同士のつながりを作ること、ガラス工芸を通じて日本の文化を発展させることを目的とした日本ガラス工芸協会の設立に尽力し、初代会長を務めた。また、母・岩田糸子(1922-2008)も岩田家に入ったことでガラス作家の道を歩み、柔らかくて扱いにくいとされてきた黒色ガラスを積極的に表現に取り入れた[※1]。

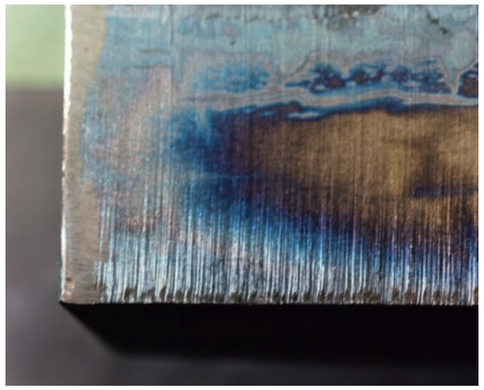
このように、個人的な作家活動にとどまらず、日本のグラス・アート全体の発展に大きく寄与してきたのが岩田家であり、イワタは幼少の頃から、ガラス造形が身近にある環境で育った。そして、ルリという名前もガラスの古称、瑠璃に由来している。

このたびの展示では、吹きガラスで作られた花器が床の間に飾られている。抽象表現主義の影響を受けて制作されたもので、無色透明のガラスの曲線が絡み合い、躍動的で、華やか。花器のあちこちが光を反射してキラキラと輝く。実物を手にすると、その分厚さや重みに驚かされるが、この重厚さこそが岩田家のガラス工芸らしさである。高温でドロドロとした状態のガラスを扱い、これほど重厚な花器を成型していくのは、職人たちとの共同作業でなくてはならないのだと伺った。

板が敷かれた四畳半の中央には、鉄板が浮かび、その上にガラスと鉄の塊が佇んでいる。こちらのガラス作品は鋳型を用いて成型されたもの。イワタ自身の個性をより発揮するのが、このような彫刻的な立体作品で、こうした作品を手掛けるようになったのは、イワタが東京藝術大学、同大学院鋳金科で学んだことが大きく影響しているといえよう。吹きガラスによる器の制作と並んで、精力的に取り組んでいるもので、ミニマル・アートに触発されたとイワタは語る。

薄緑色をしたシンプルな形のガラスの塊が、圧倒的な存在感を放つ。型から外したまま、なにも処理を加えていないガラスの姿は、見る者にガラスそのものの力強さを意識させる。ガラスを型から外す際にできた欠けの奥には、制作時に生じた細かい気泡が見え、無重力空間を漂っているかのようだ。

そしてもう一つ、重要なのが鉄である。今回の展示タイトル「GLASS × 鉄 × 茶室」にも、鉄という言葉が含まれている。実は、最初のタイトル案は「GLASS × 茶室」だったのだが、“鉄の存在も大切だから。”というイワタの一言でタイトルが決まった。イワタはこれまでにも、ガラスと鉄を組み合わせたインスタレーションを発表しており、展示までのやりとりや、展示作業の最中に発せられた言葉からも、鉄をいかに大切な素材として捉えているかが伝わってきた。無垢の鉄の塊には、油膜や斑(むら)が現われ、取り繕わないありのままの姿で存在している。ガラスと鉄、それぞれの素材が存在感を示しつつ、互いを引き立てあい、調和してゆく。



“ちいさなお茶室は人と人とがお茶を介して一つになる場だと思います。”[※2]

そう語るイワタは、ガラスと鉄のインスタレーションによって調和で満ちた空間を創り上げ、自身の茶室観を提示した。そして、この調和は茶室のことだけにとどまらず、今の世の中全体の調和を願う気持ちにつながってゆく[※3]。創作活動を通じて自分自身を表現し、発信し続けてきたイワタからの、社会へ向けたメッセージでもあるのだ。

渕田恵子(当館 専門学芸員)

※1 『町田市立博物館所蔵 岩田色ガラスの世界展―岩田藤七・久利・糸子―』(神奈川新聞社、2021年)、『イワタルリ BODY × 硝子』(富山市ガラス美術館、2016年)、『【カラー版】世界ガラス工芸史』(美術出版社、2000年)を参照。

※2、3 イワタルリ茶室展示リーフレットを参照。会期中は当館HPにてダウンロード可能。

展示室1〈浮世絵〉

尾形月耕の美人画

【会期】7月26日（火）— 8月28日（日）

錦絵の終焉期に活躍した尾形月耕（1859～1920）は、絵を独学で学び輸出用工芸品の下絵職人などを経た後、雑誌の挿絵画家として活躍を開始しました。新たな大衆メディアである新聞挿絵では水野年方（1866～1908）とともに双璧として人気を分かちます。錦絵では、日本画風の淡い彩色の美人画や歴史画を大作のシリーズで発表しました。肉筆画も手がけて日本美術協会、各博覧会などに出品し、明治31年（1898）創立の日本美術院に参加して同人となり、町絵師から日本画家へと転身していきました。今回は尾形月耕の美人画を中心にご覧いただきます。

「美人花競 秋海棠」
大判錦絵
明治20年代
（1887～1896）

展示室8〈陶芸・工芸〉

止原理美展 －現在形の陶芸 萩大賞展Ⅴ大賞受賞記念

【会期】5月17日（火）— 12月18日（日）

止原理美《黒蜥蜴壺》2019年
「現在形の陶芸 萩大賞展Ⅴ」
大賞受賞作品

本展は2019年度に当館で開催されました公募展「現在形の陶芸 萩大賞展Ⅴ」における止原理美氏（1976年生まれ）の大賞受賞を記念した展覧会です。止原は、萩焼の伝統的な窯元である三輪窯での修行ののち、父・伸郎の開いた土和窯で自身の作品の制作を始めました。

大学で畜産を学んだ止原は、作陶において生物の造形にこだわり続けています。黒陶を丹念に磨き上げることによって実在しない色調ながらも生を感じる肌感と、1点ずつ色釉で着色した光沢を持つ眼球を組み合わせることで、命の宿らない無機物にもかかわらず今にも動き出しそうな生命力が表現されています。

近年では、再生の象徴としての蝶々のモチーフを取り入れ、生と死、そして再生までもが作品の中に落とし込まれています。萩焼の伝統的な窯元での修行のうえに、自身の中にある具象表現を取り入れた、止原の最新作品の数々をお楽しみください。

※11ページに今年度開催の「現在形の陶芸 萩大賞展Ⅵ」の作品募集案内を掲載しています。

現在形の陶芸

THE HAGI TAISHOU (GRAND PRIX) OF CONTEMPORARY CERAMICS VI

萩　大　賞　展　Ⅵ

作品募集案内

萩大賞〈副賞100万円〉

柏原美術館賞〈副賞20万円〉　優秀賞〈副賞5万円〉　審査員特別賞ほか

◎第1次審査申込み受付期間

2022年8月1日（月）～9月18日（日）
［日本時間9月18日（日）17時まで］

※募集要項は当館ホームページからダウンロードいただけます。

◎展覧会会期

2023年1月2日（月）～2月26日（日）
9時～17時（入場は16時30分まで）
［休館日］1月10日（火）、1月16日（月）、1月23日（月）、1月30日（月）、2月13日（月）、2月20日（月）

◎審査員（予定・五十音順・敬称略）

榎本 徹（可児市荒川豊蔵資料館特別顧問）
金子 賢治（茨城県陶芸美術館館長）
後藤 修（山口県立萩美術館・浦上記念館学芸専門監兼学芸課長）

◎展覧会会場

山口県立萩美術館・浦上記念館 陶芸館1階・2階展示室

◎今後のスケジュール

第1次審査
9月下旬ころ

第2次審査申込み受付（第1次審査通過作品のみ）
2022年10月11日（火）～11月10日（木）

第2次審査（公開審査・会場：山口県立萩美術館・浦上記念館）
2022年11月21日（月）10：00～14：00

※詳細は募集要項をご確認ください。

【主催】現在形の陶芸 萩大賞展Ⅵ実行委員会
（山口県立萩美術館・浦上記念館、萩市、萩市教育委員会、萩市文化協会、萩陶芸家協会）
【助成】カシワバラ・コーポレーション

止原理美《黒蜥蜴壺》2019年
「現在形の陶芸 萩大賞展Ⅴ」大賞受賞作品